本院　入退院支援室慢性疾患看護専門看護師
看護師長　内田邦子

～ 慢性疾患看護専門看護師の役割と活動 ～

慢性疾患は、長期にわたりゆっくりと進行する病気です。心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病をはじめ、がんや筋骨格系の病気なども含まれます。現代の病気のほとんどは治癒することが難しい慢性疾患であり、高齢化に伴い慢性疾患をもちながら生きる人が増加しています。これに伴い、慢性疾患看護の重要性が高まっています。本稿では、慢性疾患看護専門看護師の活動を紹介することで慢性疾患看護に興味をもっていただけたらと思います。

慢性疾患看護専門看護師は認定が開始された2004年から2022年までに全国で262名が活動しています。慢性疾患看護専門看護師は慢性疾患をもつ人と家族の暮らしを支えることが主な役割です。加えて、慢性疾患看護に関する教育や相談、研究活動、倫理的課題に取り組むなどの活動を行っています。慢性疾患の特徴は意外にわかりにくいかもしれません。慢性疾患の多くは目に見えず、自覚症状がほとんどないまま複数の合併症が出てきたり、予期しない急性増悪を来すことがあります。そのため、慢性疾患をもつ患者は、 生涯にわたるセルフケアの継続が求められます。セルフケアとは、体調を整えるための行動であり食事療法、運動療法、薬物療法、睡眠の他、病気に特有の医療処置をすることも含まれます。しかし、慢性疾患をもつ患者にとってセルフケアを継続することや合併症の出現に伴い新たなセルフケアを生活に取り入れることは、その重要性に関わらずそう簡単なことではありません。

腎不全が進行した50歳代の男性がいました。末期腎不全は心不全や意識障害など生命の危機に陥る重篤な症状を引き起こすため、腎臓の代替療法として人工透析が必要になります。なかでも血液透析は週3回、1回に4時間かかります。男性は「透析はしない。そんな時間はない」と言います。このような時、私たち医療者はついネガティブな感情をもち「困った患者」とレッテルを貼ってしまいがちす。しかし、働き盛りの男性が血液透析に通う時間を確保するには職場の理解および仕事内容や家庭の役割の調整が必要になります。また、年代的に親の介護を担っている場合もあります。多重の役割を抱えている生活に急に新たな治療が加わることに衝撃や悲しみ、絶望感を抱いているのかもしれません。慢性疾患看護はこのような時、その人がその人らしく生きることを支援します。つまりその人が“どうありたいか”を実現するセルフケアを共に考え歩んでいくことです。その人の「こうありたい」に焦点をあてると「困った患者」から「仕事や家族を必死に守っている人」へと見方が変化します。患者の見方が変わると看護者のかける言葉や態度が変化し、それは確実に患者に伝わります。

患者さんに関するカンファレンスの様子

慢性疾患看護の一部の例を紹介させていただきました。慢性疾患看護を学ぶことで慢性疾患への理解が深まり、慢性疾患をもつ患者・家族の長い療養生活を支える良き伴走者になりませんか。ご興味のある方は、ぜひ慢性疾患看護専門看護師への道をお勧めします。